

ベオグラード大学¹

1. 機関についての一般情報

1-1 名称

Studijski profil Japanologija, Katedra za orijentalistiku, Filološki fakultet u Beogradu
ベオグラード大学文学部東洋学科日本語・日本文学専攻課程

1-2. 住所、電話、FAX、URL

住所 Studentski trg 3, Beograd, 11000, Serbia

電話 +381-11-2638-622

FAX +381-11-2630-039

URL <http://www.fil.bg.ac.rs/>

1-3. 組織構成

ベオグラード大学文学部東洋学科に属する専攻課程

1-4. 設立年月日と沿革

1976年：11月11日、副専攻の言語コースとして日本語導入(2年の初級コース)

1985年：10月1日、日本語・日本文学専攻課程設立 (4年の中級までのコース)

1989年：大学院(修士課程・博士課程)設立

1986年：国際交流基金から専門講師派遣(2年毎に2名) (~1990)

2005年：ボローニャ・プロセスの導入が始まり教育改革が実施

2006年：東京外国語大学との協定に基づく日本人講師受け入れ開始

2013年：選択科目としての日本語教育が広まり、各地の小学校や高等学校に導入

2016年：40周年を記念し国際的な学会を主催

現在：アンドリッチグラードで東洋学部を設立する準備が進んでいる

1-5. 日本学科、あるいは日本学・日本語コース設置の目的

- ・日本の言語・文学・文化についての総合的な教養を身につけ、世界の様々な地域で、活躍する人材を養成し、文化の架け橋を築く。日本の文化を学ぶとともに、日本語でバルカン半島について発信する。

教育機関としての役割

¹ こちらの機関報告は事前データを基に作成した暫定改訂版です。

広い視野、豊かな教養、日本語のコミュニケーション能力を生かして、社会のあらゆる場面で、良い人間関係を構築し創造的な共同活動ができる人を育てる。初等・中等教育機関と協力し、セルビアにおける日本語教育の発展に貢献する。

研究機関としての役割

言語、文学、文化、社会学、経済学など多岐にわたる研究を進めるとともに、優れた文学関係書籍の翻訳活動を通して、セルビアにおける日本学の発展に貢献する。

文化機関としての役割

首都はもとより地方都市の文化会館、文化団体、メディアなどと協力し、公開講座やワークショップ、映画上映会など、日本文化に関するイベントを実現することによって、市民や青少年にも日本の文化を広く伝える。

2. 機関に関する詳細情報

2-1. 教育課程

高等教育 学部 4年 大学院修士課程 1年 大学院博士課程 3年

2-2. スクールカレンダー

前期 10月-12月 後期 2月-5月

試験期間 1月・6月・9月

2-3. 日本学専攻の方法

シングルメジャーが中心であるが、一般言語学科の学生が主専攻の日本語演習を受講できる。また、副専攻科目としても日本語(初級レベル)があり、とても人気がある。

2-4. 日本学科、あるいは日本学・日本語コースのカリキュラム

言語系、文学系、文科系の三つから構成され、主たる科目は以下のとおりである。

現代日本語	<p>対象 : 1年・2年・3年・4年 形式 : 語学演習+講義 コマ数 : 週 10 時間 (前期・後期) 目的 : 日本語の四技能を身につける。 担当 : 4人の教師によるチーム・ティーチング(日本人 2名+セルビア人 2名) 教科書 : 初級日本語上・下(1年・2年) 中級(3年・4年)</p>
日本語文法	<p>対象 : 1年・2年・3年・4年</p>

	<p>形式 : 講義 コマ数 : 週 2 時間 (前期または後期) 目的 : 日本語文法について、体系的な知識を身につける。</p>
日本文学入門	<p>対象 : (1年) 形式 : ワークショップ コマ数 : 週 2 時間 (後期) 目的 : 日本文学の代表的な作品を翻訳で読み、語り合う。(古典・近代・現代詩) 担当 : 3人の教師によるチーム・ティーチング</p>
日本語表記(漢字)	<p>対象 : 1年・2年・3年・4年 コマ数 : 週 1 時間 (前期・後期) 目的 : 漢字演習</p>
日本語翻訳演習	<p>対象 : 3年・4年 コマ数 : 週 1 時間 (前期・後期) 目的 : 日本語からセルビア語への翻訳の演習。朝日新聞の記事を読む。</p>
日本文学史 1	<p>対象 : 3年 コマ数 : 週 2 時間 (前期・後期) 目的 : 日本文学史を古代、中古、中世にわたって概観。代表作品の鑑賞・分析。</p>
日本文学史 2	<p>対象 : 4年 コマ数 : 週 2 時間 (前期・後期) 目的 : 日本文学史を近世、近代、現代にわたって概観。代表作品の鑑賞・分析。</p>
日本学入門	<p>対象 : 1年 形式 : 講義 コマ数 : 週 2 時間 (前期)</p>
日本文明論入門	<p>対象 : 1年 形式 : 講義 コマ数 : 週 2 時間(後期)</p>
日本語社会語学論	<p>対象 : 1年 形式 : 講義 コマ数 : 週 2 時間(前期・後期)</p>
西洋と日本文学論	<p>対象 : 1年 形式 : 講義 コマ数 : 週 2 時間(前期・後期)</p>

日本経済論	対象 : 2年 形式 : 講義 コマ数 : 週2時間(後期)
日本文明・社会論	対象 : 3年 形式 : 講義 コマ数 : 週2時間(前期・後期)
日本美術史	対象 : 3年・4年 形式 : 講義 コマ数 : 週2時間(前期・後期)
日本語の言語学論	対象 : 3年 形式 : 講義 コマ数 : 週2時間(前期)
セルビア語と日本語の対照分析	対象 : 3年 形式 : 講義 コマ数 : 週2時間(後期)
日本と近代化	対象 : 4年 形式 : 講義 コマ数 : 週2時間(前期・後期)

2-5. 進級試験、卒業論文、卒業試験の有無

学士課程	単位制	卒業論文は無し
修士課程	単位制	修士論文有り
博士課程	単位制	博士論文有り

2-6. スタッフ・教員

名前	ポスト	専門
Prof. Ljiljana Marković, PhD	教授	経済学・文明論・社会学
Prof. Kayoko Yamasaki, PhD	教授	比較文学・日本語教育・現代詩
Prof. Divna Tričkovičić, PhD	准教授	日本語学・対照文法・日本語教育
Prof. Marina Đalović, PhD	准教授	文明論・文化論
Danijela Vasić, PhD	講師（専任講師）	比較文学・古典文学とフォークロア・日本語教育
Dalibor Kličković, PhD	講師（専任講師）	比較文学・近代文学・仏教思想・日本語教育
Milica Jotov, PhD	講師（専任講師）	文明論

Divna Glumac, PhD	講師（専任講師）	日本語学・対照文法・日本語教育
Marko Grubačić, PhD	講師（専任講師）	日本美術史
高見あずさ, M.A.	日本語専任講師	日本語学・日本語教育
正木みゆ, M.A.	日本語専任講師	日本語学・日本語教育
mr 山崎洋	非常勤講師	翻訳論
mr Branislav Vučurović	司書	日本語学

そのほか、必要に応じて、博士課程在籍者の助教制度がある。

2-7. 日本語・日本学関連図書数

本・10万1386点

雑誌・約4千点

2-8. 協定校

東京大学、岡山大学、北海道大学、広島大学、中央大学、早稲田大学、明治大学、広島大学、埼玉大学、TUFS

3. 学生について

3-1. 各学年ごとの履修者数

目安*：1年54名、2年35名、3年40名、4年25名

*法の改正によって、学生は以前のように1年、2年、3年、もしくは4年それぞれの学年への登録を行いません。現在は新学年の登録のみを行っていますので、学年ごとの明確な人数を出すことは不可能です。

現時点の1年-4年までの学生数：310名

現在までの卒業生：681名

現時点の修士課程の履修者：12名

現時点の修士課程の卒業生：80名

現時点の博士課程の卒業生：14名

3-2. 日本への留学状況(本学科で把握しているもの)

学部留学

- ・文科省日本文化研究留学生(大使館推薦) (年に2名)
(東京教育大学, 名古屋大学などへ行く生徒が多い)

- ・文科省日本文化研究留学生(国内推薦) (年に1名)
(岡山大学)
- ・中島平和財団奨学生 (毎年1名)
(岡山大学)

このほかに個人的なルートで留学する学生もあるが把握していない。

修士課程・博士課程の援助として東財団と伊藤財団があり、毎年1名か2名が送られるようにしています。

3-3. 卒業時の平均的な日本語レベル

N2もしくはN3

3-4. 卒業後の進路

現在、経済状況がますます悪化して、就職が厳しい時代にある。優秀な卒業生が自分の能力を十分に発揮できない場合が多い。

就職先は、一般企業、メディア関係、大使館、JICA、外国へ移住(欧米・日本など)。

留学経験のある卒業生は、日本語運用能力が高いので、就職に有利である。

3-5. 日本語学習の動機

近年は、アニメ等のサブ・カルチャーのファンが日本語を専攻する傾向がみられる。入学の動機は、日本文化に魅力を感じたため、などが多い。

4. 学科の活動

4-1. 授業外活動

- ・ JLPT (2008年より)導入
- ・ 多読ワークショップ
- ・ 詩をめぐるワークショップ(ヴィゴツキーの発達心理学を応用したワークショップ)
- ・ にほんご発表会(共同制作のビデオクリップ、寸劇、歌など)
- ・ 難民支援活動(ACCとの協力)
- ・ 日本語カフェ(日本人との会話)
- ・ 日本語で発信(日本の人々へセルビアを紹介)
- ・ 「ちいさな大使たち」(留学帰国生発表会)
- ・ ブルガリアの日本語キャンプ参加
- ・ Japan Bowl®の開催(2017年から)

4-2. 交流

- ・日本からの大学生との交流(毎年日本からの留学生は5名ほどいる)
- ・日本人留学生との交流(日本語カフェ)
- ・2013年6月に『セルビア日本学会』を発足、セルビア国内およびボスニア・ヘルツェゴビナの日本語教育ネットワーク、文化行事などの企画を推進予定

4-3. 研究活動

- ・東京外国語大学日本語教育センターのプロジェクトに参加、インターネットの日本語教育システム JPLANG セルビア語版作成(2011年) Eラーニング・システムを自由学習に導入している
- ・セルビア語で日本語教材作成

4-4. 支援

国際交流基金(図書寄贈、催し・学会の助成)
日本政府草の根(2012年秋、ランゲージ・ラボラトリー設立)
中島平和財団奨学金制度
伊藤財産
東京財団

5. 課題

5-1. 授業における諸問題

- ・教室の不足
- ・セルビアは、国会で試験期が決定される。以前は、3期あったものが現在は6期に増えており、授業時間を確保するのが困難である。

5-2. 機関が過去抱えてきた課題、現在抱えている課題

若い教官の養成、日本語を利用できる就職先の不足

5-3. 他の大学と望む活動

日本語教育ネットワーク作り
日本文学、日本文化などに関する研究者のネットワーク作り
学生交流

5-5. 今後の展望

バルカン半島、中央ヨーロッパの地域ネットワーク作り(交流)